

令和6年度 墨田区立曳舟小学校 学校経営計画・経営報告書（自己評価・学校関係者評価）

作成者 校長 松塚 智加子

学校教育目標	・すすんで学ぶ子 ・なかよく助け合う子 ・心も体もすこやかな子
目指す学校像	・笑顔と活力にあふれ、児童一人一人が自分のよさや個性を發揮できる学校 ・全ての教職員が協働し、質の高い教育活動の実現を目指す学校 ・保護者・地域の方々に信頼され、地域のコアとなる学校
目指す児童像	・生涯にわたって学ぶ意欲をもち、生きる力の基となる考える力のある子供 ・自分も相手も大切にし、協同してやり遂げることができる子供 ・心身ともに健康な体をつくり、自分のよさや個性を發揮できる子供
目指す教師像	・常に子供ファーストの視点をもち、専門性向上に努める教師 ・協働し、チームとして高め合える教師 ・教育公務員としての自覚と使命をもち、保護者・地域の方々から信頼される教師

○令和6年度 学校経営計画における重点内容

質の高い教育活動

- ・確かな学力の育成、向上
- ・児童のよさや個性を伸ばす教育
- ・地域、保護者と協働した開校90周年記念事業の実施

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価		
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等
各教科指導等	1 確かな学力の育成 (1)基礎的な学力の定着・向上	・めあてやゴールの明確化、自力解決、学び合い、まとめと振り返りを明確にした問題解決型の授業設計と実施 ・ICT機器を活用した授業 ・学力向上委員会の開催	4 教科指導において問題解決型の授業設計と実施 90%以上	4	4 区学力調査69観点について全国平均より5ポイントアップ 90%以上	4	毎時間、めあてやゴールの明確化、自力解決、学び合い、まとめと振り返りを明確にした授業展開を行うことができた。国及び区学力調査では高い水準を保っている。	各学年、各教科で、発展的かつ探究的な学習をより一層推進していく。	A	A	・全校の学力は高く、今後も取組を継続してほしいが、平均以下の児童の底上げも期待したい。 ・学力向上の取組の成果が出ている。
			3 教科指導において問題解決型の授業設計と実施 70%以上		3 区学力調査69観点について全国平均より5ポイントアップ 70%以上						
			2 教科指導において問題解決型の授業設計と実施 50%以上		2 区学力調査69観点について全国平均より5ポイントアップ 50%以上						
			1 教科指導において問題解決型の授業設計と実施 50%未満		1 区学力調査69観点について全国平均より5ポイントアップ 50%未満						
	1 確かな学力の育成 (2)論理的思考力・表現力を高める	・探究的な学習活動 ・思考ツールや、プレゼンテーションソフトを活用した発表活動。	4 毎日1回以上授業でICT機器を活用する 90%以上	4	4 毎日1回以上ICT機器を活用した授業の実施率 90%以上	4	高学年はテーマを決めて探究的な学習に取り組み、プレゼンテーションソフトを用いて発表することができた。	タブレット端末について、ルールや使い方を見直すとともに、保護者にも周知し、より正しく効果的に使用できるようにする。	A	A	・タブレット端末は非常に高いレベルで活用でき、表現力が定着してきている。論理的思考力向上に向けて、ICT機器以外の取組にも期待したい。
			3 毎日1回以上授業でICT機器を活用する 70%以上		3 毎日1回以上ICT機器を活用した授業の実施率 70%以上						
			2 毎日1回以上授業でICT機器を活用する 50%以上		2 毎日1回以上ICT機器を活用した授業の実施率 50%以上						
			1 毎日1回以上授業でICT機器を活用する 50%未満		1 毎日1回以上ICT機器を活用した授業の実施率 50%未満						
	1 確かな学力の育成 (4)読解力の育成（校内研究）	・校内研究（研究授業3回、研究を生かした授業を全員2回以上公開）	4 校内研究を生かした国語科の授業展開をする 90%以上	4	4 区学力調査の国語について全国平均より5ポイントアップ 90%以上	4	「主体的に学び、自分の考えを伝え合う児童の育成」を研究テーマとして、低中高学年各1回ずつ計3本の研究授業を実施し、講師を招聘して研究を深めることができた。	引き続き、基礎学力の定着を図る。新聞を学習活動に取り入れ、新聞に親しんだり、新聞を活用したり、新聞を作ったりする活動を行い、情報活用能力や論理的思考力を向上させる。	A	A	・良い取組なので継続してほしい。 ・新聞を具体的にどのように活用するか楽しみである。 ・読書離れの中、よく研究されている。
			3 校内研究を生かした国語科の授業展開をする 70%以上		3 区学力調査の国語について全国平均より5ポイントアップ 70%以上						
			2 校内研究を生かした国語科の授業展開をする 50%以上		2 区学力調査の国語について全国平均より5ポイントアップ 50%以上						
			1 校内研究を生かした国語科の授業展開をする 50%未満		1 区学力調査の国語について全国平均より5ポイントアップ 50%未満						
生活指導等	2 自分も友達も大切にする教育の推進 (1)教育活動全体を通じた人権教育、道徳教育の推進、いじめ、不登校の未然防止	・年間3回はいじめ防止アンケート及びいじめ防止授業 ・QUアンケートの活用 ・SC、SSW、区子ども家庭総合支援センター、警察署等との連携	4 教ア) 児童アンケート等を活用していじめの早期発見・対応をする 90%以上	4	4 いじめの解消率 90%以上	4	毎週の生活指導夕会を通して、児童の実態を理解し、児童の抱える悩みや背景も考慮した支援方法について共通理解を図り、いじめ解消率100%を維持することができた。	生活指導主任を中心として、報告を徹底し、より迅速かつ適切に対応することが課題である。	A	A	・いじめの解消率100%は高く評価できる。今後も未然防止と早期対応を進めてほしい。 ・個別に丁寧な対応をしている。
			3 教ア) 児童アンケート等を活用していじめの早期発見・対応をする 70%以上		3 いじめの解消率 70%以上						
			2 教ア) 児童アンケート等を活用していじめの早期発見・対応をする 50%以上		2 いじめの解消率 50%以上						
			1 教ア) 児童アンケート等を活用していじめの早期発見・対応をする 50%未満		1 いじめの解消率 50%未満						
	2 自分も友達も大切にする教育の推進 (3)異学年交流の推進	・たてわり班活動（月1回以上） ・委員会活動について、常時活動の活発化、委員会掲示板の活用	4 教ア) たてわり班活動のA・B評価 90%以上	4	4 保護者ア) なかよく助け合う子A・B評価 90%以上	3	たてわり班活動を月1回以上実施し、高学年の児童が中心となって交流を進めた。	活動の時間をより一層充実できるように、リーダーの6年生に準備の指導を丁寧に行う。多様な児童を認め合えるように、人権教育の充実を図る。	A	A	・各種行事で6年生の姿が素晴らしかった。今後も異学年交流で下学年に良さを伝えてほしい。
			3 教ア) たてわり班活動のA・B評価 70%以上		3 保護者ア) なかよく助け合う子A・B評価 70%以上						
			2 教ア) たてわり班活動のA・B評価 50%以上		2 保護者ア) なかよく助け合う子A・B評価 50%以上						
			1 教ア) たてわり班活動のA・B評価 50%未満		1 保護者ア) なかよく助け合う子A・B評価 50%未満						
	3 体力向上、健康・安全教育の推進 (1)基本的な生活習慣の確立	・曳舟スタンダードの徹底 ・年間目標「あいさつ」の徹底 ・正門での6年生あいさつ運動 ・文中生によるあいさつ運動 ・保健指導、給食指導	4 児ア) あいさつができたA・B評価 90%以上	4	4 保護者ア) あいさつができたA・B評価 90%以上	3	6年生によるあいさつ当番の取組が定着してきている。	全教職員が児童や保護者にすすんで挨拶することで、自分から元気よく挨拶する雰囲気高めるようにする。	A	B	・個人差はあるが、挨拶は比較的できている。 ・家庭環境も影響している。 ・挨拶はもっと向上できる。正門での挨拶が定着するようにしてほしい。
			3 児ア) あいさつができたA・B評価 70%以上		3 保護者ア) あいさつができたA・B評価 70%以上						
			2 児ア) あいさつができたA・B評価 50%以上		2 保護者ア) あいさつができたA・B評価 50%以上						
			1 児ア) あいさつができたA・B評価 50%未満		1 保護者ア) あいさつができたA・B評価 50%未満						

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価		
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等
6 校務改善に向けた取組の推進 (2) 教職員としての専門性向上	・職員会議の削減 ・軽減講師の配置 ・夕会でのOJT (週1回 夕会) ・校内研究 (研究授業3回、研究を生かした授業を全員2回)	4 OJTの実施・校内研を生かした授業の実施 90%以上	4	4 教ア) 専門性が向上したA・B評価 90%以上	4	年間3回、各種研修等に参加し、学習指導力、生活・進路指導力を高めることができた。学年やブロックの教員で授業を見合ったり助言し合ったりすることができた。	週に1回OJT夕会を計画的に行い、教員が互いに高め合うことができるようにする。	A	A	・高いレベルと意欲で授業が行われている。	
		3 OJTの実施・校内研を生かした授業の実施 70%以上		3 教ア) 専門性が向上したA・B評価 70%以上							
		2 OJTの実施・校内研を生かした授業の実施 50%以上		2 教ア) 専門性が向上したA・B評価 50%以上							
		1 OJTの実施・校内研を生かした授業の実施 50%未満		1 教ア) 専門性が向上したA・B評価 50%未満							
	6 校務改善に向けた取組の推進 (4) サービスの厳正	・夕会でのOJT (月1回) ・服務研修 (年3回) ・教職員間でのコミュニケーションを活発化する	4 OJT (月1回)・服務研修 (年3回) の実施 90%以上	4	4 服務事故0 90%以上	4	夕会や毎月の服務事故防止研修を行い、服務事故0を維持している。	教員同士で互いに言葉を掛け合う雰囲気作りをより一層推進する。	A	A	・今後も常に高い意識を維持してほしい。 ・周年行事を経験して教職員の雰囲気がさらに良くなった。 ・教員同士の意見交換を期待する。
			3 OJT (月1回)・服務研修 (年3回) の実施 70%以上		3 服務事故0 70%以上						
			2 OJT (月1回)・服務研修 (年3回) の実施 50%以上		2 服務事故0 50%以上						
			1 OJT (月1回)・服務研修 (年3回) の実施 50%未満		1 服務事故0 50%未満						
	6 校務改善に向けた取組の推進 (5) 「働き方改革」の推進	・校務分掌の再編 ・職員会議の削減 ・定時退勤日 (月1回以上) ・20時最終退勤時刻 ・教員用iPadを活用した連絡、情報交換	4 20時最終退勤・定時退勤日 (月1回以上) 90%以上	4	4 時間外在校時間 月45時間以内 90%以上	3	最終退勤時刻を20時に設定し、出張帰りの直帰、定時退勤日を推奨することで、超過勤務の教員は減ってきているが、約17%の教員が時間外在校時間月45時間を超過している。	今後も会議や打合せの効率化、精選を進めていく。	B	B	・具体的方策は評価できるが、目標を達成できていないため、他校の取組を参考にすると良いのではないかと。 ・健康第一の働き方を切に願う。
			3 20時最終退勤・定時退勤日 (月1回以上) 70%以上		3 時間外在校時間 月45時間以内 70%以上						
			2 20時最終退勤・定時退勤日 (月1回以上) 50%以上		2 時間外在校時間 月45時間以内 50%以上						
			1 20時最終退勤・定時退勤日 (月1回以上) 50%未満		1 時間外在校時間 月45時間以内 50%未満						
5 家庭・地域との連携・協働の推進 (1) 開校90周年記念事業の推進	・PTA、地域実行委員会 ・校内実行委員会 ・航空写真、記念誌、パルーン、式典、祝賀会等 ・おめでとう集会 (月1回)	4 記念事業の立案、実施 90%以上	4	4 児ア、保ア、教ア) 心に残る記念事業A・B評価 90%以上	4	地域の皆様、開校90周年記念事業実行委員会、PTAと協力して、記念事業を完遂することができた。	今後も児童が地域の皆様から大切にされていることを実感できるような取組を継続していく。レガシーを引き継ぎ、次の100周年に向けて、愛校心を育てていく。	A	A	・非常に素晴らしい記念事業を完遂できたと評価する。事業を通じて児童の愛校心や地域愛も育むことができた。改善方策にも期待する。	
		3 記念事業の立案、実施 70%以上		3 児ア、保ア、教ア) 心に残る記念事業A・B評価 70%以上							
		2 記念事業の立案、実施 50%以上		2 児ア、保ア、教ア) 心に残る記念事業A・B評価 50%以上							
		1 記念事業の立案、実施 50%未満		1 児ア、保ア、教ア) 心に残る記念事業A・B評価 50%未満							
	5 家庭・地域との連携・協働の推進 (3) 学校評価を活用した教育活動の推進	・フォーラム等を活用した各種アンケート調査 (行事、年度末) ・アンケートを基にした分掌部会の開催、改善策の立案、発信、実践 ・学校運営協議会開催	4 アンケート調査を基にした改善策の立案、発信、実践 90%以上	4	4 保ア) 学校評価を活用した学校運営A・B評価 90%以上	3	行事のアンケート等では好意的な意見が増え、保護者が学校を応援している雰囲気が醸成されている。	学校評価の活用については、より分かりやすく保護者に発信するようにする。	A	A	・保護者の学校への関わりが増えていていると感じる。今後も家庭や地域との連携を強化してほしい。
			3 アンケート調査を基にした改善策の立案、発信、実践 70%以上		3 保ア) 学校評価を活用した学校運営A・B評価 70%以上						
			2 アンケート調査を基にした改善策の立案、発信、実践 50%以上		2 保ア) 学校評価を活用した学校運営A・B評価 50%以上						
			1 アンケート調査を基にした改善策の立案、発信、実践 50%未満		1 保ア) 学校評価を活用した学校運営A・B評価 50%未満						
	5 家庭・地域との連携・協働の推進 (4) 積極的な情報発信	・学校だより、学年・給食・保健だより発行 (月1回) ・学校ホームページの更新 (週1回) ・正門前の掲示版活用 ・日常的な保護者への連絡 (連絡帳、電話) ・民生委員との情報交換	4 学校HPの更新週1回以上 90%以上	3	4 保ア) 適確な情報発信A・B評価 90%以上	3	学校だよりや、ホームページで学校の情報を迅速に発信するとともに、教育活動の様子なども定期的に発信することができた。	学校ホームページは、昨年度よりも頻繁に更新しているが、来年度は確実に週1回更新することができるように進めていく。	A	A	・必要な情報を分かりやすく遅れなく配信できればよいので、特にホームページの週1回更新にこだわる必要はないのではないかと。
			3 学校HPの更新週1回以上 70%以上		3 保ア) 適確な情報発信A・B評価 70%以上						
			2 学校HPの更新週1回以上 50%以上		2 保ア) 適確な情報発信A・B評価 50%以上						
			1 学校HPの更新週1回以上 50%未満		1 保ア) 適確な情報発信A・B評価 50%未満						

○令和6年度 学校経営報告のまとめ (総括)

教科指導、生活指導、学校行事など、児童がより楽しく学校へ通えるように、教職員の共通理解と企画準備を十分に行い、教育活動の一層の充実を図る。保護者アンケートや学校関係者評価の中で「分からない」という回答が多かったため、今後はより分かりやすく保護者や地域へ教育活動を発信していく。開校90周年記念事業を完遂することができたので、今後も児童が保護者や地域の皆様から大切にされていることを実感できるような取組を継続していく。レガシーを引き継ぎ、次の開校100周年に向けて、愛校心を育てていく。